

平成 24 年度 教師海外研修 研修報告書

派遣国：タンザニア

学校名：小田原市立桜井小学校

担当：記録・写真

氏名：河野 裕之

1. 今回の研修における目的やねらい

- 1) タンザニア共和国の小学校や中学校を訪問（視察）して、現地子どもたちと教育交流をし、国際的視野に立ったものの見方を養い、国際理解教育（開発教育）の知識を深め、今後の教育活動に生かすと共に、推進役として校内または小田原市内の教育の発展に努めることを目的とする。
- 2) 開発途上国のボランティア活動（援助活動）の現場を視察（取材）し、国際理解を広げ、総合学習の指導または外国語活動の指導に役立てることを目的とする。
- 3) 事前研修等で学んだ外国語（英語・スワヒリ語）を活用し、タンザニアの小学校や中学校で授業や会話をすることで、語学教育の知識を深め、自校の教育活動に生かることが出来ると考え、それを実践していくことを目的とする。

2. 目的やねらいがどのくらい達成されたか

上記の 1) については、8 月 22 日の校内研修会で実施予定。資料を作成し、交流の様子や視察で感じた思い等を発表する。2) に関しては、「外国語活動指導要領」に記載されている「異文化の交流」において、実際に見て感じたことを、言語や表現活動を通して想像しながら活動する授業を構成する。もともとあった子どもたちの「タンザニアのイメージ」を活用しながら、ALT との活動も含めて実施していこうと考える。3) においては、スワヒリ語の難しさを痛感した。実際は、通訳に頼り、日常会話程度しか話せなかったが、言語の構成や文法を学ぶことができた。

3. タンザニアから学んだこと

「タンザニアを散歩する→三歩→三ポ→三つのホッ→ホッとした三つのこと」一つ目は、子どもたちの期待を裏切ることがなくてホッとした。子どもたちは「タンザニアに行きたい」と思っており、タンザニアの人たちの温かさや人柄、環境なども含めて、行ってみたいと思える国であった。二つ目は、笑顔で迎えてくれることにホッとした。こちらからスワヒリ語で話しかけたりコミュニケーションを取ろうして表現したりすると明るく笑顔で返してくれた。カリブ精神が浸透しており、「みんな友達」という意識を感じた。三つ目は、つながりあえることにホッとした。携帯電話の普及は近年めまぐるしく成長している。どれだけ貧しくとも、保とんとの人が携帯をもっていた。どんな場所にいってもつながっていられるツールの一つである。そして、日本とタンザニアにおいてもつながっていられる一つの方法である。距離的には遠いが、音声という媒体を通せばとても近くに感じることもできた。

4. 今回の研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

主に外国語活動の時間で活用したい。事前の活動では「タンザニアを想像してみよう」というテーマで、総合学習の時間を使い、タンザニアのイメージをもたせたい。生活の様子や学校の様子を想像して、実際はどうだったかを資料や映像またはパワーポイントなどを使い、意外性や想像通りという考えをもたせ、興味づけをしたい。そして、「どうあることが幸せ（楽しい）なのか」に結びつけるために、ALT との異文化交流や会話の中で、支援の在り方を理解させていく。

5. 今回の研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

実際に見てみないとわからないということ。自分自身の想像だけでは良くも悪くも違う想像が多く、間違えた解釈をしてしまっていた。そこに気づけたのは大きな収穫。また、英語活動になりつつある外国語活動に対して、「異文化の交流」「異文化理解」の活動を取り上げ、活用できるきっかけがつかめたことはとても大きなスキルになった。

6. その他、研修全般を通じての感想・意見など

提出期限：平成 24 年 8 月 16 日（木）

多くの方々に支えられて研修に参加できたことに感謝しています。とてもよい研修になりました。JICAが行っている支援事業の必要性やそこにおける人間模様が理解でき、より一層国際理解教育に関心がもてました。ありがとうございます。

私を感じたのは、その JICA が意図する一つの「子どもを育てる支援の在り方」について、事前の研修等で具体的に提示をしていただき、目的意識をしっかりとった状態で海外研修に臨むことができればより一層濃密な研修になると思います。

7. 今後の本研修参加者へのアドバイスなど

チームワークが大切、みんなで助け合って、分担をしながら、「何でも吸収してやろう」という気持ちで参加してほしい。あと、足元に注意をして歩いてほしい。けがのないように事前に対策を練っておく必要がある。いろいろなネガティブな場面を想像して、それを防ぐためにどうしたらいいかを事前のブリーフィングで話し合うことが大切である。

8. 各訪問先等の所感

日 時	テーマ	所 感
7 月 29 日(日)	日本からタンザニアまでの移動中および現地到着	日本とタンザニアの距離はかなり離れているが、思ったよりも遠さを感じなかった。
7 月 30 日(月)	JICA タンザニア事務所表敬	きれいな環境にびっくりした。また、タンザニアについての大まかな状況を所長のほうから伺い、イメージができた。
7 月 30 日(月)	本日の振り返り	なし
7 月 31 日(火)	JICA タンザニア事務所研修ブリーフィング	特に健康面は気をつけなくてはいけないと感じた。メインは教育セクターで、現場の状況がある程度分かった。
7 月 31 日(火)	市内視察（教材購入）	教科書の多さに驚いた。自由に歩けないことはとても残念だった。
7 月 31 日(火)	本日の振り返り	具体的なイメージをもって、質問や写真を撮る必要がある。
8 月 1 日(水)	ミクミ国立公園、タンザム幹線道路改修計画	動物が見られたことに感謝。道路の舗装が行き届いてないことに驚きと、生活の困難さを理解した。
8 月 1 日(水)	イリンガ隊員との懇談	とてもたくましい。日本人として頼もしく、誇らしく思えた。
8 月 1 日(水)	本日の振り返り	何を教材としてイリンガから学ぶのかを考えた。
8 月 2 日(木)	クレルー教員養成学校 横山隊員	学校施設がとても整っている。生徒の反応は「政府が～」が多かった。
8 月 2 日(木)	イフンダ中等学校 幾山隊員	共同生活をして、楽しく学校生活を送っている風景が印象的だった。生徒は恥ずかしそうでシャイな反応で、どの国も年頃の女の子の反応は変わらないことがわかった。
8 月 2 日(木)	本日の振り返り	学校の様子が見られたことがとてもよかった。想像以上に学習体制は整っているように思えた。
8 月 3 日(金)	ンゴメ小学校 谷村隊員	カリブ精神には脱帽。感動すら覚えた。授業交流の時間が短くて残念だった。

提出期限：平成 24 年 8 月 16 日（木）

8 月 3 日（金）	コミュニティ訪問	区村長の行政においては、その周辺の地域環境は大きく変わることがわかった。また、地方行政・地方分権の必要性を再認識した。
8 月 3 日（金）	Mkwawa 博物館	偉人を今も尚、語り継ぎ後世に残していこうとする住民の熱さに敬服した。
8 月 3 日（金）	本日の振り返り	日本の教育のよさ、日本に取り入れたほうが良いともうことが、小学校訪問でわかった。教育行政の確立が急務である。
8 月 4 日（土）	地方道路開発技術向上プロジェクト視察	足元に注意なくとはいけないくらいの道路状況で危険であることに対して、身を挺して理解した。
8 月 4 日（土）	イリンガ市内視察	一日一日を必死で生き抜いている生活の様子が見られた。日本に近いお米（メルーサ）と教科書を購入できてとてもよかった。
8 月 3 日（金）	専門家との懇談	道路の重要性について改めて理解した。LBT を実施して住民参加型のプロジェクトの有効性を知った。
8 月 4 日（土）	本日の振り返り	足をけがしたことによって、得られた教材もある。それだけ道路には危険があるということに気づけるだろう。
8 月 5 日（日）	イリンガからダルエスサラームへの移動	もっと道路整備が整えば、移動時間も短縮されると思う。道路は大切である。
8 月 5 日（日）	本日の振り返り	ばらばらと質問するのではなく、ピンポイントで教材となりえる質問心がける。 何より隊員さんに感謝。
8 月 6 日（月）	首都圏周辺地域給水計画視察	水における健康被害を食い止めるにはとてもよい支援である。住民の人の意識づけも必要である。
8 月 6 日（月）	JICA タンザニア事務所 討論会	討論会の形式や事前に考えておいたテーマは、小学校の現場でも有効的である。
8 月 6 日（月）	教材購入	お米（インディカ米）が買えたことはとてもよかった。
8 月 6 日（火）	本日の振り返り	誰にどれだけお土産が必要か考えた。来年度に向けての反省。
8 月 7 日（水）	JICA タンザニア事務所 研修報告会	自分がどんな授業をしたいのかが明確になった。
8 月 7 日（水）	在タンザニア日本大使館表敬 訪問	三つのホットしたことを述べた。大使の受け答えがとても丁寧で、タンザニアの現状も具体的に知ることができた。
8 月 8 日（木）	タンザニアから日本までの移 動中および日本到着	あっという間だった。子どもたちにもタンザニアは遠い国ではないことを理解してもらいたい。そのための授業計画をしっかり立てようと感じた。